

氏名	齋藤 尚子
フリガナ	サイトウ ナオコ
英名	Naoko Saitoh
職位	助教
学位	博士(理学)
大学院専攻	融合科学研究科
学部学科	情報画像学科
研究室	研究棟 2F
TEL/FAX	043-290-3843
Eメール	nsaitoh@faculty.chiba-u.jp
URL	<a href="http://www.cr.chiba-u.jp/saitohlab/">http://www.cr.chiba-u.jp/saitohlab/</a>
学歴	平成 10 年 奈良女子大学理学部卒業 平成 12 年 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程修了 平成 15 年 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了
職歴	平成 15-17 年 独立行政法人 国立環境研究所 NIES ポスドクフェロー 平成 17-18 年 東京大学 気候システム研究センター 産学官連携研究員 平成 18-21 年 9 月 東京大学 気候システム研究センター 特任助教 平成 21 年 10 月 千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 助教(現職)
所属学協会	日本気象学会、大気化学研究会、日本地球惑星科学連合、日本リモートセンシング学会、米国地球物理学連合 (AGU)
専門分野	大気化学、衛星リモートセンシング
研究テーマ	1. 人工衛星データを用いた成層圏・対流圏大気化学研究 2. 人工衛星センサーの熱赤外スペクトルデータからの 気体濃度導出アルゴリズム開発 3. 人工衛星データを用いた温室効果気体濃度変動の解析
発表論文等	CO <sub>2</sub> retrieval algorithm for the thermal infrared spectra of the Greenhouse Gases Observing Satellite: potential of retrieving CO <sub>2</sub> vertical profile from high-resolution FTS sensor, <u>N. Saitoh</u> , R. Imasu, Y. Ota, and Y. Niwa, <i>J. Geophys. Res.</i> , Vol. 114, doi:10.1029/2008JD011500, 2009. Variation in PSC occurrence observed with ILAS-II over the Antarctic in 2003, <u>N. Saitoh</u> , S. Hayashida, T. Sugita, H. Nakajima, T. Yokota, and Y. Sasano, <i>SOLA</i> , Vol. 2, 072-075, doi:10.2151/sola.2006-019, 2006. Intercomparison of ILAS-II Version 1.4 aerosol extinction coefficient at 780 nm with SAGE II, SAGE III, and POAM III, <u>N. Saitoh</u> , S. Hayashida, T. Sugita, H. Nakajima, T. Yokota, M. Hayashi, K. Shiraishi, H. Kanzawa, M. K. Ejiri, H. Irie, T. Tanaka, Y. Terao, R. M. Bevilacqua, C. E. Randall, L. W. Thomason, G. Taha, H. Kobayashi, and Y. Sasano, <i>J. Geophys. Res.</i> , Vol. 111, doi:10.1029/2005JD006315, 2006.
担当講義	普遍/「物理学演習 C 電磁気学演習」/後期月曜日 1 限 普遍/「地球環境とリモートセンシング」分担/前期木曜日 2 限 情報画像学科/「リモートセンシング工学」分担/後期金曜日 2 限 融合科学研究科「リモートセンシング環境情報学 I」分担/前期火曜日 5 限

## 研究概要

融合科学研究科「応用リモートセンシング工学」分担/後期水曜日3限

これまで、太陽掩蔽法センサー（ILAS、ILAS-II データ等）を用いた成層圏オゾン層変動過程の研究や、衛星搭載センサーで得られた熱赤外スペクトルデータから温室効果気体や大気汚染物質等の大気微量成分気体の濃度を導出するアルゴリズムの開発を行ってきました。現在は、温室効果ガス観測に特化した世界初の衛星（GOSAT）のデータを利用した温室効果気体濃度変動の研究に従事しています。